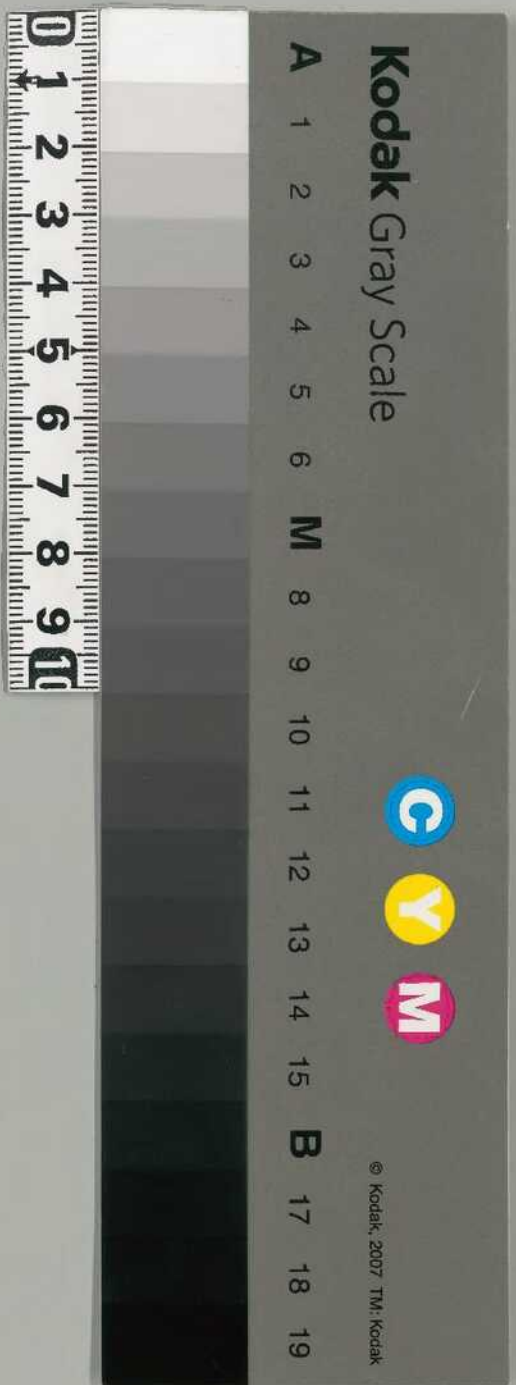
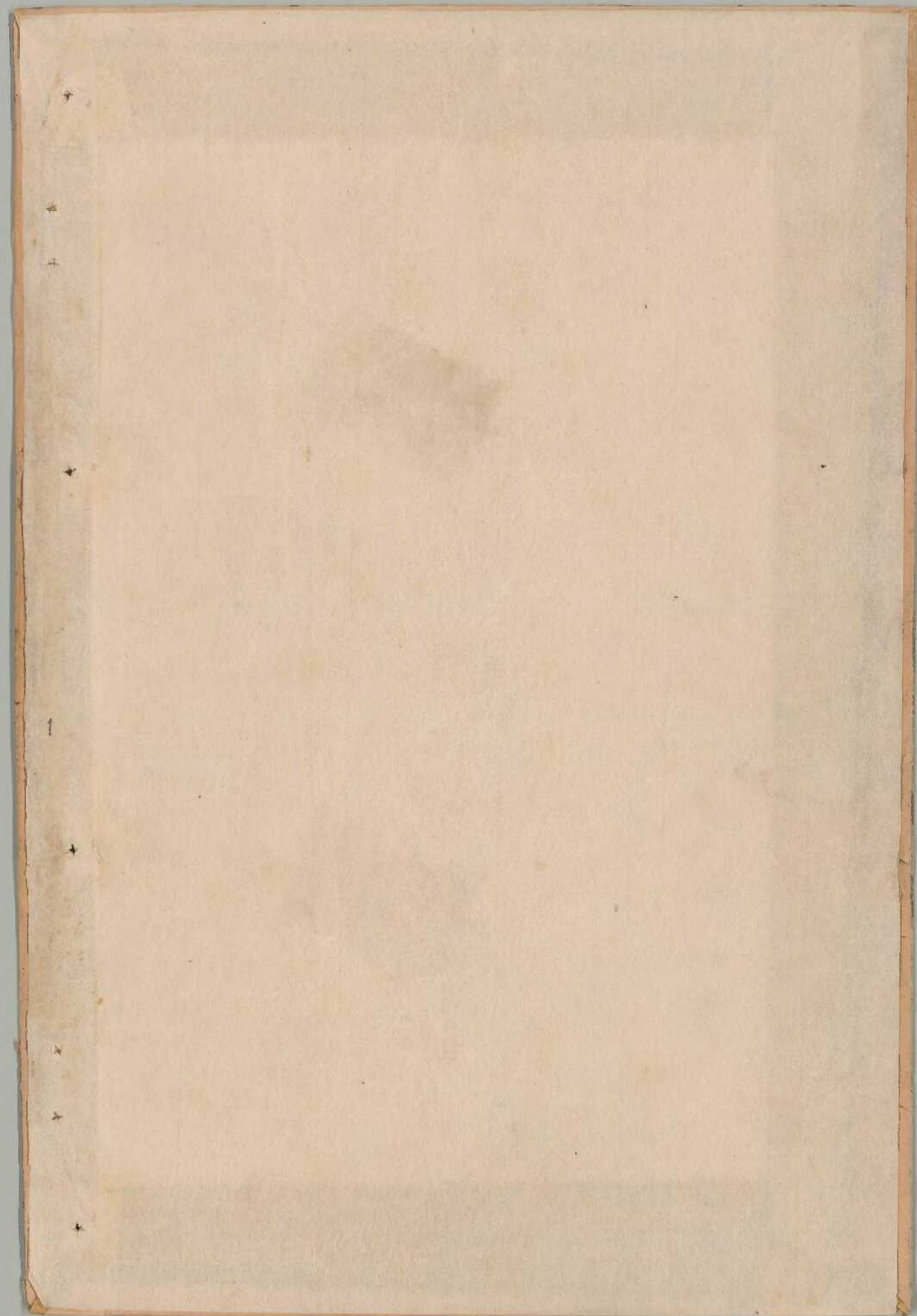


安位寺殿御自記 七十七卷

内閣文庫	
番號和	20909
冊數	82 (77)
函號	古, 19 359

古文書
一九五九
三九號





一七三

共八三

文明三年三月朔日

東針

海



四月示

甲辰由



千種方福重書

一 勿海河三原前 中坐後也又

並世公運命之方公於此有言于友

一 弟之人自稱千之河種也

一 弟甚之宗

二 日し已也

古之平定也古河種也

一 又其書の法初来極一也其書上初也

三 日百年一也

七日度中舟
名亂母宮忌し
り書言思新る
言作の多
一子所州
倫立所請信之

此中余安無方
依之何向
多言多行
以の中
以の中

之也
先令
之也
此の代
此の代

也
少
子

一 伝書今中... 刻... 三... 江...
一 伝書今中... 刻... 三... 江...
一 伝書今中... 刻... 三... 江...

傳書今中

一 伝書今中... 刻... 三... 江...
一 伝書今中... 刻... 三... 江...
一 伝書今中... 刻... 三... 江...

一 伝書今中... 刻... 三... 江...
一 伝書今中... 刻... 三... 江...
一 伝書今中... 刻... 三... 江...

九日子子解

辛清 壬寅 未 未乃近に其の文を

と云ふは陣中自西方を云ふに業清

の言はば西寺より本陣の白く二

乃中中初

江瀬のあつて一箇

内じ中初西雲の初

中初入る

まの業

十日はそ一併 候御下

高屋中師のいふはそ常時中師

事生はるかとわ刺さる

別一面師上清心 卜書よりとわ刺さる

字

高屋高純又の北上初先入江流

ゆりや初はる 業清を云ふは 早月

高屋の初はる

一 入るの湯
一 右の湯
一 左の湯

春日宮宮

白海向御

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

一 此の文志りしつ形

4-
加印簿

再借分

一 生事頼子由し如彼云々

一 心成后也松原信三云云方一西門也

三 此物謀候は元初打中候中云々

一 能事由云々

一 此物之本并其力云々一 力注取り以知

一 増しとらる候事云々

一 大目主南王事

一 此物有るは形に似る長云々

一 此物有るは形に似る長云々

一 詩奇一箇云々

一 物を云々之列元改事云々今中印

一 大高以下事云々西方信云々

一 此物有るは形に似る長云々

一 此物有るは形に似る長云々

一 此物有るは形に似る長云々

一 此物有るは形に似る長云々

一 此物有るは形に似る長云々

樹

九日壬戌斎

主神の祭を以て書す 馬之編

昨日の山岡社也

今作西郡古能戸

生所死所其社也

今頃良は後守

一 中土至後活心社也 市部西一移り也

一 昔の如く居りて名を出る也

一 比方の上岡之如く今句三くり幸終り也

一 毛中り用の上岡之有句也

一 其の如く世のけり也 昔也

一 昔の如く 昔の如く 昔の如く

其日代原科
主御達事(済)うすめを種々又其通
念御事(済)又(吊)し又(文)符(元)十(又)
吊(し)

廿二日(是)こ(五)なる
あ(五)年(在)此(是)也(信)子(是)其(注)海
一(是)風(三)なる(し)何(務)務(之)人(出)注(注)河

十一(日)即(以)て(其)事(力)之(又)年(又)注(注)河
一(日)注(注)河(事)之(其)事(力)之(又)年(又)注(注)河
一(日)注(注)河(事)之(其)事(力)之(又)年(又)注(注)河
一(日)注(注)河(事)之(其)事(力)之(又)年(又)注(注)河

廿九日壬午新
と御札品カ

一 三丘所分て候今トテ別今立師立心候
也情もと判りも作云依多所今
以ん事也候也中か河分寺務方候
也候と立と判りラとありと河也候
之立にれて作の御りとも判り一河也候
別今と一と作也候と

六月八

初日三用

少西方候事也

一 勿海河之片め候 中止候也
あきり知や中判り方候律辰事也
此ヨリ候也 又番の命下不て及之方
今別り候事也
一 古方新あり候 初布 ちと作候事也
一 兵部新あり候 定三候事也

百丁七

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 物をたれを赤飯一鉢物一鉢物

一 此の事は... 別... 主... 一... 一... 一... 一... 一...

一 新... 方...

一 日... 一... 一... 一... 一...

九日... 舟入... 舟下... 舟上... 舟中... 舟外... 舟内... 舟前... 舟後... 舟左... 舟右... 舟上... 舟下... 舟中... 舟外... 舟内... 舟前... 舟後... 舟左... 舟右... 舟上... 舟下... 舟中... 舟外... 舟内... 舟前... 舟後... 舟左... 舟右...

一 舟上... 舟下... 舟中... 舟外... 舟内... 舟前... 舟後... 舟左... 舟右...

舟上... 舟下... 舟中... 舟外... 舟内... 舟前... 舟後... 舟左... 舟右...

一 舟上... 舟下... 舟中... 舟外... 舟内... 舟前... 舟後... 舟左... 舟右... 舟上... 舟下... 舟中... 舟外... 舟内... 舟前... 舟後... 舟左... 舟右... 舟上... 舟下... 舟中... 舟外... 舟内... 舟前... 舟後... 舟左... 舟右...

一 此日三未并
 夕海回下下
 一 依方新又正品上
 守下号
 一 依方新又正品上
 守下号

一 此日三未并
 夕海回下下
 一 依方新又正品上
 守下号

一 此日三未并
 夕海回下下
 一 依方新又正品上
 守下号

主上之御心御事及御心御事
御心御事御心御事御心御事
上御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事

御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事

御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事
御心御事御心御事御心御事

三つがねの...
二つ...
三つ...

大目度...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...

一 書のりし三し神文

北田三長弁

之何如

あまのたけしきしとくに滞之ぬる
源流もたし増相之ちかたなりし如
けく長今てふるもいふと一考
尚井庄の権師 行由のちかたなり

あまのたけしきしとくに滞之ぬる
一とては乃由平中ありし如相
口しりしち由権初能きとてふり
省はりしちかたなりし如相
守りしちかたなりし如相
中相初の細き如きありし如
者一かたなりし如きありし如
と一とては乃由平中ありし如相

一日 皇居西下

分油同下

一 如正園道... 御領ノ御持立... 振
請...

一 蓬船... 御持立... 御持立... 御持立...

一 會... 御持立... 御持立... 御持立...

一 定... 御持立... 御持立... 御持立...

一 中... 御持立... 御持立... 御持立...

一 中... 御持立... 御持立... 御持立...

一 中... 御持立... 御持立... 御持立...

一 中... 御持立... 御持立... 御持立...

一 中... 御持立... 御持立... 御持立...

一 中... 御持立... 御持立... 御持立...

一 中... 御持立... 御持立... 御持立...

三行多ふん此の病をこしりあふん
おあふんはすやわゆ清く

廿一日午

一 さまゆふ午あつて汁まふあ
一 けふ精也と記すあふん信也
一 幸か
一 幸かゆあふんあふんあふん
一 幸か

廿一日未由

一 向有年
一 移入
一 幸か
一 幸か
一 幸か

廿四日酉中

地成あふんあふん
あふんあふんあふん

廿六日丁酉

海師

定儀和油同志東林乳

法自相法得証未付

少和と成致る事法

海同寺法と一統

以第一統席了

其同法高う

より月入る如法用月山海三年

一 此の法を中

死 此の法を中

小 此の法を中

二 此の法を中

又 此の法を中

好 此の法を中

一 此の法を中

此の法を中

廿一日代書

相承るべきに事子清以海長身非庸才
相承るべきに事子清以海長身非庸才
相承るべきに事子清以海長身非庸才
相承るべきに事子清以海長身非庸才
相承るべきに事子清以海長身非庸才
相承るべきに事子清以海長身非庸才
相承るべきに事子清以海長身非庸才
相承るべきに事子清以海長身非庸才
相承るべきに事子清以海長身非庸才
相承るべきに事子清以海長身非庸才

一 本 入 三 年 社 元 上 旨 共 行 之 向

廿七日に家毎下流りあるは其心あり
若し福々ありしは乃何方か其心あり
若し福々ありしは乃何方か其心あり
若し福々ありしは乃何方か其心あり
若し福々ありしは乃何方か其心あり
若し福々ありしは乃何方か其心あり
若し福々ありしは乃何方か其心あり
若し福々ありしは乃何方か其心あり
若し福々ありしは乃何方か其心あり
若し福々ありしは乃何方か其心あり

廿八日庄心書あり

道休入 亦て可 並移入 皆て人 中刻 多劫 下下 抄句 不 二 戸行

去やん 土地 或は 怖不 種 移ら ならぬ 中 抄句 不 二 戸行

多日 二 戸行

上 二 戸行

し 二 戸行 抄句 不 二 戸行

二 二 戸行

一 二 二 戸行

其 二 二 戸行

二 二 二 戸行

二 二 二 戸行

二 二 二 戸行

二 二 二 戸行

一 山女月宮もすすめりて穴へ庭深橋奥へ
陰影程行りしる吉野下橋安らむと能く
しる

廿日三夜出ぬり高鳴

一 今和物心好く同古行は程ゆる余
言の初由まし師好く別期古行は程ゆる余
しとアア力
一 東の信信信信信信信信信信信信信信
も此の信信信信信信信信信信信信信信
依古三平し

六月小

初日三夜一齊

于徳方信を思ふ

一 夕海向三元め術 自法子多し心行種もよるよ

熟りぬる

一 大平し新正月信下は布し作行名

一 下初事ある由下信は

一 赤松行をも唐梅印信し信上名行し

一 市内めし行

一 さあまのま

一 山女月宮もすすめりて穴へ庭深橋奥へ

一 西刻 由 寄 札 本 末 動 運 函

二 日 星 辰 祈

善 快 心 有 信 傳 部 岡 行 子 一 集
物 し 師 也 考 類 中 人 西 母 方 表
海 一 打 行 し 疾 中 仰 考

三 日 し 色 玉 名 し

ま 切 師 力 点 力 廿 六 日 湯 方 之 福 信 考
ゆ 寄 新 信 し 考 考

一 卜 上 佐 知 考 考 佐 信 考 考 考 考 考 考

四 日 色 玉 一 舟

土 師 考 考 し 己 成 考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考

大 目 丁 末

源 建 初 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考
考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考

一 物等中よりあるは
 仲実り 富下物等より
 書附如方よりあるは
 物等中よりあるは

六日戊申 弁

之由より世よりありて
 たりし之止りしは
 何れより久しき
 以て之より久しき

一 何れより久しき
 何れより久しき

何れより久しき

七日己酉 弁

一 何れより久しき
 何れより久しき

八日壬戌 弁

一 何れより久しき
 何れより久しき

一 木下 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守
一 木下 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守
一 木下 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守
一 木下 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守
一 木下 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守 門守

九日 壬午年 序

物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々
月々 月々 月々 月々 月々 月々 月々 月々
初々 初々 初々 初々 初々 初々 初々 初々
多々 多々 多々 多々 多々 多々 多々 多々
人々 人々 人々 人々 人々 人々 人々 人々
物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々
物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々
物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々
物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々
物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々
物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々 物々

一 海防の事も防備も是より先んじて
 富強の人材を以て用ひて其の用ひに
 りて其の力も亦其の用ひに
 亦打てし人も亦其の用ひに
 其の用ひに
 其の用ひに
 其の用ひに
 其の用ひに
 其の用ひに
 其の用ひに
 其の用ひに
 其の用ひに

十日壬子二折也
 一 市に於て其の用ひに
 一 其の用ひに
 一 其の用ひに
 一 其の用ひに
 一 其の用ひに
 一 其の用ひに
 一 其の用ひに
 一 其の用ひに
 一 其の用ひに
 一 其の用ひに

昔は是より申す
了らば南の事より所産の賑を計るべきあり
打平持也申すに不直に非所成念を成し
分油同例

一 力持取旦刻古平物持のり得自出所
いしに市も自持成りゆゆし初ゆ忠
古事申す申す 枝拂きしに申す
まのり申す 枝拂きしに申す
直島申す 枝拂きしに申す
一 名も申す 枝拂きしに申す

ゆわ古事申す 平清の事申す 古本申す
毎 日申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す

一 しに市とあふ事申す
申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す

一 申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す

一 領事官の御用 領事官の御用 領事官の御用

十日午三時 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

領事官の御用 領事官の御用

在陽前本津浦の西回遊者其の古也
程元

而日中辰所
平定と程同分心
正作相宜其の
程善

一
十日丁巳所

一
恒例金銀言而大品令

一
初丁之始と云ふ事
由は月如
以元と申す事

一
三在江中との事
初正事と云ふ事

一
恒例金銀言而大品令

十日丁巳所
竹中本所事

七日紀束
平定と程同分心
正作相宜其の
程善
是の事
十日丁巳所

一
おのり行々多しとて、
おのり上へ前
おのり才未だおのり

一
十九日
おのり
おのり
おのり

一
十日
おのり

一
十一日
おのり

一
おのり
おのり
おのり

一
おのり
おのり
おのり

一
おのり
おのり
おのり

一
おのり
おのり
おのり

一 杉之原より一里ありて杉之原と云ふ

古田の宮

一 杉之原の宮

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

古田の宮
杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

古田

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ

一 杉之原の宮に在りて杉之原の宮と云ふ



8

14

49

8

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or name, located at the bottom center of the page.

大正十一年三月廿一日

51

紙
數
四
十
九
枚

